

# 接着芯地についての基礎研究 (第1報)

—学生の接着芯地の使用状況—

本郷美枝 汐田美智子 森 静香

The Fundamental Studies on the Adhesive Interlining. (1)

—On how the students employ the Adhesive Interlining—

by Mie HONGO, Michiko SHIOTA, and Shizuka MORI

It has been comparatively long since adhesive interlining has been developed and employed. The purpose of the present study is to conduct its fundamental research concerning adhesive interlining.

In this paper, the comparisons on yearly basis and their respective correlations concerning how students employ the adhesive interlining are reported on the basis of the results of the inquiries which the authors have conducted upon their students. In future the authors intend to continue this research by local application of similar methods.

## 緒 言

近年、科学のめざましい進歩にともない、被服学の分野では、被服の材料等においても非常に複雑かつ多様化されて来ている。その中でも芯地は、実習上合理的に行なわれると思われる各種の接着芯地が開発され、市販、使用されるようになり、学校教育の場においても、被服構成ならびに他教科において指導の際に利用されている。しかし、接着芯地を実習、指導する上において、今まで使用されてきた各種芯地と異なり、物理的、化学的要素が多分に含まれているので、被服構成実習上、基礎を十分に把握し、合理的に指導したいと考え、まず学生に接着芯地に関する調査を行なった。一方その学生に独自の方法で同一条件のもとに実習、実験<sup>(1)</sup>を試み、さらに一年後、接着芯地についての感想を求めた。

第1報では、学生の接着芯地の使用状況について、学生に行なった調査の結果の年度別比較及びその相関関係について考察をし、またその学生が実習、実験を試みた一年後の接着芯地の感想などについて報告を行なうものである。さらに、この研究は今後学生の実習、実験及び部分的な応用などについて、研究、考察を行なうものとする。

## 調 査 方 法

### ☆ 調査時期

昭和45年11月

昭和46年9月

## ☆ 調査対象

学生の接着芯地の使用状況についての調査対象は、昭和44年度・昭和45年度・昭和46年度入学の本学短期大学部服飾美術科の学生。

昭和44年度入学生については、調査月日は昭和45年11月であるが、この一年前にすでに実習、実験を行っており、調査記入と一年後の接着芯地についての感想を同時に行なった。(以下これを **A** とする。)

昭和45年度入学生については、調査月日は昭和45年11月で、その後実習、実験を行ない、一年後の昭和46年9月に接着芯地についての感想を求めた。(以下 **B<sup>1</sup>** と **B<sup>2</sup>** とする<sup>(3)</sup>。)

昭和46年度入学生については、調査月日は昭和46年9月で、まだ実習、実験は行っていない。(以下 **C** とする。)

## ☆ 実施方法

質問紙により解答を求めた。さらにその学生に実習、実験を行なった一年後に、各自接着芯地を使用したか又は関心を持っているものと考え、接着芯地に対する感想を求め、集計し考察する。

## ☆ 調査項目

1. 学生の接着芯地を知った時期について
2. 学生の接着芯地を使用したことの有無について
3. 接着芯地を使用したことのある学生は、各種洋服の、どの部分に使用したかについて
4. 接着芯地を使用したことのある学生は、使用した接着芯地の種類と品名の認識について
5. 接着芯地を知っていて使用しなかった学生は、使用しなかった理由について
6. 各種既製品に使用されている接着芯地についての感想
7. 実習、実験を行なう前の学生の接着芯地についての感想
8. 実習、実験を行なった学生の、一年後の接着芯地についての感想
9. 各種相関関係について

## ☆ 回収率

A	調査人数	86名 <sup>(3)</sup>	回収率	100%
B <sup>1</sup>	調査人数	94名	回収率	100%
B <sup>2</sup>	調査人数	81名 <sup>(4)</sup>	回収率	100%
C	調査人数	149名	回収率	100%

## 調査結果及び考察

### 1. 学生の接着芯地を知った時期について

学生の接着芯地を知った時期については、図1に示す通りである。学生はほとんど全員が知っているが、別に調査した主婦の結果<sup>(5)</sup>は、42.1%しか知っているはない。図1を見てみると、**B<sup>1</sup>**は大学に入ってからの割合が多かったが、年々普及してきたためか、**C**は中学校、高等学校で半数は認識し、一部は既に使用してきている。但し、中学校で知っていると答えた学生の一部には、家庭で母親が使用するのを見たり、洋裁店などで見て、何となく知っていたということである。

知っていると答えた学生については、学校教育の場においてか、またはマスコミ関係かその他に

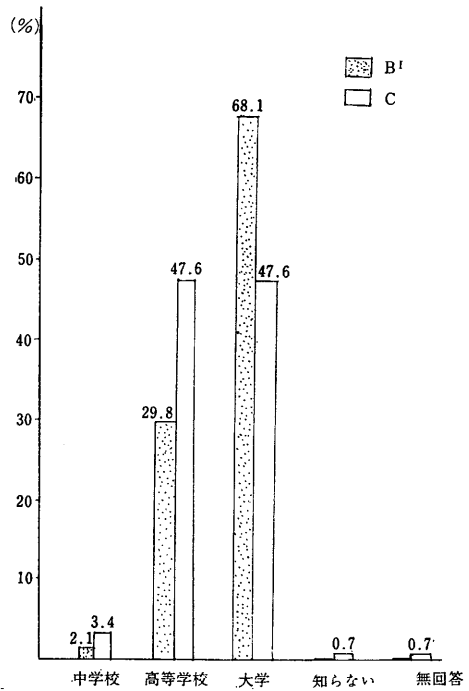


図1 学生の接着芯地を知った時期について

ついてであるかは不明である。AはだいたいB¹と同じ傾向である。

### 2. 学生の接着芯地を使用したことの有無について

学生の接着芯地を使用したことの有無については、接着芯地を知っている学生、B¹94名(100%)、C149名(98.0%)の結果は、図2に示す通りである。調査結果をみると、接着芯地を知ってはいても実際に使用したことのある学生は、B¹11名(11.7%)であるが、Cは120名(81.6%)と高くなっている。AもB¹と同じぐらいで13名(15.1%)が使用しているだけであり、この一年の伸び率には目をみはる感がある。但し使ったことのある時期については設問不足のため、一部不明な点もある。

### 3. 接着芯地を使用したことのある学生は、各種洋服の、どの部分に使用したかについて

接着芯地を使用したことのある学生は、各

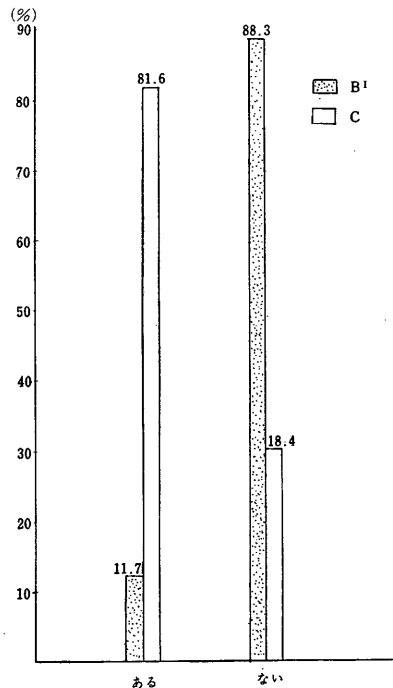


図2 学生の接着芯地を使用したことの有無について

表 1 接着芯地を使用したことのある学生は、各種洋服のどの部分に使用したかについて

(頻数によるため100%をこす)

	使用した主な部分	B <sup>1</sup>		C	
		実数(人)	%	実数(人)	%
スカート	見返し, ヨーク, すそなど	9	81.8	125	100.0
ブラウス	カフス, えり, 前立など	4	36.4	8	6.7
ワンピース・ドレス	カフス, すそなど	2	18.5	12	10.0
スーツ	見返し, 前芯, えり, 玉縁の縁布など	5	45.5	10	8.3
コート	見返し, そで口, えり, 玉縁の縁布など	4	36.4	3	2.5
子供服	—	—	—	—	—
その他	小物入れなど	1	9.1	2	1.7
無回答	—	—	—	2	1.7

種洋服の、どの部分に使用したかについて、実際に使用したことのある学生 B<sup>1</sup>11名(11.7%), C120名(81.6%)についての結果が表1である。表の数字は頻数によるもので、B<sup>1</sup>11名で回答数25、C120名で回答数162である。

スカートの項目を見ると、B<sup>1</sup>に比べ、Cがとびぬけて多いがこれは、流行などによりスカートのデザインの変化によるなどと思われる。また教材としてスカートが取り上げられた直後の調査であったこと、スカートが日常着として比較的手軽に扱えることなどが上げられるのではないだろうか。

Aについては、13名で回答数20であり、B<sup>1</sup>と同じような傾向が見られ、CがA、B<sup>1</sup>に比べていかに顕著かがうかがえる。

4. 接着芯地を使用したことのある学生は、使用した接着芯地の種類と品名の認識について

接着芯地を使用したことのある学生は、使用した接着芯地の種類と品名の認識についての結果は、図3に示す通りであるが、接着芯地を使用したことのある学生B<sup>1</sup>11名(11.7%), C120名(81.6%)についてのものである。接着芯地の種類と品名がわかると答えた学生の内訳は、B<sup>1</sup>において不織布接着芯地5名、織布接着芯地1名、Cにおいては不織布接着芯地23名、織布接着芯地5名、無回答11名であ

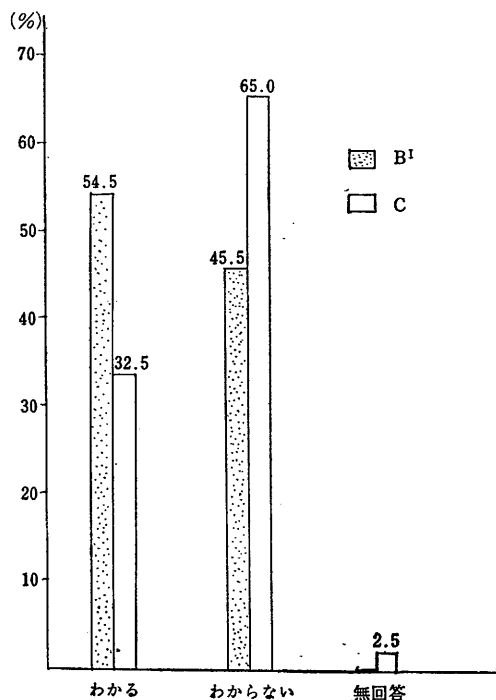


図 3 接着芯地を使用したことのある学生は、使用した接着芯地の種類と品名の認識について

った。この中で、不織布接着芯地と織布接着芯地の両方がわからず、両者を適材適所に使用している学生が1名もいなかったということは驚きであった。

さらに、使用していながら、種類と品名がわからないと答えた学生が多いということは、指導の際に考えなければならぬ問題である。

A と B<sup>1</sup> は、だいたい同じ傾向である。

#### 5. 接着芯地を知っていて使用しなかった学生は、使用しなかった理由について

接着芯地を知っていて使用しなかった学生が、使用しなかった理由については、接着芯地を使用しなかった学生 B<sup>1</sup>83名（88.3%）、C27名（18.4%）の結果が表2に示す通りである。いずれも、その他、無回答が多いのは、「最近知ったばかりだから」、「芯を用いるものを作る機会がなかった」、「洋裁に関心がなかった」、「何となく」などである。

表2 接着芯地を知っていて使用しなかった学生は、  
使用しなかった理由について

	B <sup>1</sup>		C	
	実数(人)	%	実数(人)	%
むずかしそうだから	2	2.4	3	11.1
購入しづらいから	4	4.8	2	7.4
使い方がわからない	13	15.7	3	11.1
心配である	7	8.4	—	—
その他	43	51.8	8	29.6
無回答	14	16.9	11	40.8

#### 6. 各種既製品に使用されている接着芯地についての感想

各種既製品に使用されている接着芯地についての感想の主なものを上げると、次のごとくである。A、B<sup>1</sup>、Cともに洗たくに関することについて感じたことを第一に上げている。その中でも「家庭で洗たくを行なうと、接着芯地がはがれてくるように思う」、「縮むように感じる」、「こしがなくなるようだ」、「家庭で洗たくをするには向かない」などと述べている。そして「接着芯地の付いたものは、クリーニングに出す方がよい」というのもあった。次に洋服の型について上げられるものが多く、「しっかりしている」、「薄手に仕上がるので見た目によい」、「軽い」と良い点が上げられる一方、「どんな芯地が使用されているのかがわからない」という意見も出ている。接着の状態については、「部分的に接着不十分」、「かたすぎる」、「スカートなどの見返しには良いが、スーツなどに用いてあるのは好きでない」、また一方「きれいに接着されている」、「上手に接着されている」とも述べられている。中には「見たことがない」、「無関心」と書かれたものがあったのも見逃すことは出来ない。

#### 7. 実習、実験を行なう前の学生の接着芯地についての感想

実習、実験を行なう前の学生の接着芯地についての感想は、以下のようなものが主であった。B<sup>1</sup>、Cともに「便利である」、「簡単」という感想が圧倒的に多かった。次には「製作時間の短縮」、「仕上がりがすっきりしている」と答えており「将来大いに利用してみたい」と述べているものも多い。一方「接着条件がむずかしいのではないか」との不安も述べられている。

Aについては、この設問に該当しないので除いた。

8. 実習、実験を行なった学生の、一年後の接着芯地についての感想

実習、実験を行なった学生の、一年後の接着芯地についての感想は、以下のものであるが、AとB<sup>2</sup>の感想である。技術面から見ると、実習、実験を行なう前と同じように「便利である」、「簡単」というものが多く、「合理的」、「能率的」、「実用的」、「仕上がりがきれいだ」、「使いやすい」、「接着条件がむずかしいので、しわになったり、はがれたりする」、「アイロンの器具などに気をつかう」と述べ、洗たく面では、「はがれてしまうのではないかと不安を持つ」、「はりがなくなるのではないかと心配」、「はがれる時があるので、接着剤の接着力をもっと強力にした方がよい」、「意外にかたい感じであった」などもあった。さらに「実習、実験をしてよかった」、「もっとくわしく実習、実験を指導してほしい」、「もっとくわしい知識を持ちたい」、「表布にあった接着芯地の選び方を考えなければならない」、「接着芯地より今までの芯地の方がしっくりする」などであり、7.の感想よりも具体的な事項について述べられているのは、実習、実験をした意義が非常にあったのではないかと思う。Cはまだ実習、実験を行っていないのでのぞいた。

9. 各種相関関係について

各種相関関係については、図4と表3に示す通りである。

(1) 学生の接着芯地を知った時期についてと学生の接着芯地を使用したことの有無についての相関関係について

図4について説明すると、B<sup>1</sup>知っている学生94名(100%)についてである。使用したことのあ  
る学生については、1. 中学校で0名、2. 高等学校9名(81.8%)、3. 大学2名(18.2%)であり、  
C 知っている学生149名(98.0%)についてで、使用したことのある学生は、1. 中学校3名(2.5%)  
2. 高等学校60名(50.0%)、3. 大学57名(47.5%)である。

使用したことのない学生については、B<sup>1</sup> 1. 中学校2名(2.4%)、2. 高等学校19名(22.9%)、

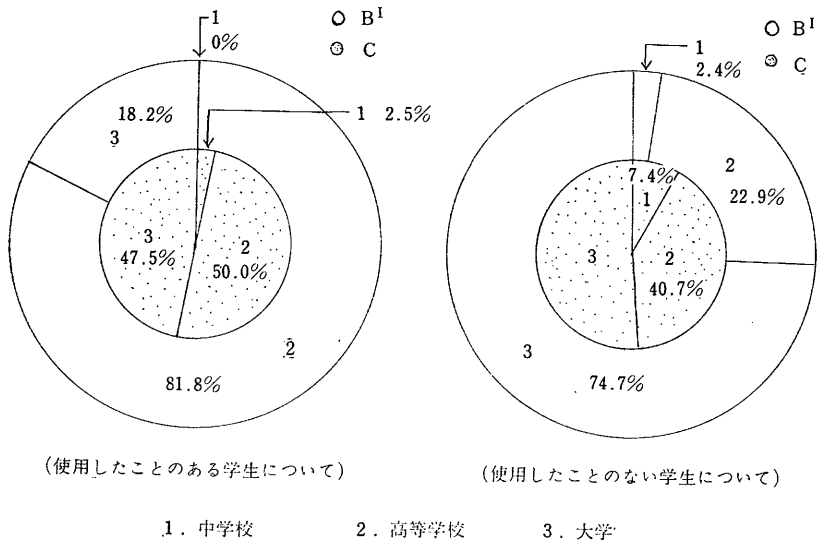


図4 学生の接着芯地を知った時期についてと学生の接着芯地を使用したことの有無についての相関関係について

3. 大学62名（74.7%）である。C 使用していない学生，1. 中学校2名（7.4%），2. 高等学校11名（40.7%），3. 大学14名（51.9%）であった。

接着芯地の普及が上昇するにつれ，学生が知ることも，使用することも%が上廻ってきている。

（2）接着芯地を知った時期と，どの種類の洋服に使用したかの相関関係について

表3について見ると，Cの高等学校，大学で接着芯地をスカートに使用しているのが圧倒的に多い。その他，高等学校時代には，ブラウス，ワンピース・ドレス，コートなどは，スカートに比べ多くない。大学でも，ブラウス，ワンピース・ドレス，スーツ，コートにあまり見られないが，今後，要目が進むにつれ，実習，実験を取り入れながら，基礎をしっかりと把握させるよう指導して行きたいと思う。

表3 接着芯地を知った時期と，どの種類の洋服に使用したかの相関関係について

（頻数によるため100%をこえる）

	B <sup>1</sup>								C							
	中学校		高等学校		大学		合計		中学校		高等学校		大学		合計	
	実数 (人)	%	実数 (人)	%	実数 (人)	%	実数 (人)	%	実数 (人)	%	実数 (人)	%	実数 (人)	%	実数 (人)	%
スカート	—	—	8	88.0	1	11.1	9	81.8	3	2.4	60	48.0	62	49.6	125	100.0
ブラウス	—	—	4	100.0	—	—	4	36.4	1	12.5	6	75.0	1	12.5	8	6.7
ワンピース ・ドレス	—	—	1	50.0	1	50.1	2	18.2	—	—	11	91.7	1	8.3	12	10
スー ツ	—	—	5	100.0	—	—	5	45.5	—	—	10	100.0	—	—	10	8.3
コ ー ト	—	—	4	100.0	—	—	4	36.4	—	—	3	100.0	—	—	3	2.5
子 供 服	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	1	100.0	—	—	1	9.1	—	—	2	100.0	—	—	2	1.7
無 回 答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	100.0	2	1.7

## ま と め

以上の調査結果をみると，昭和44年度入学・昭和45年度入学の学生に比べ，一年しか経過していない昭和46年度入学生は，接着芯地を知った時期も早く，すでに大部分の学生が高校より使用している。しかし大学に入学してから知ったという学生も多いのは，本学入学生の中には，都市をはなれた場所より来ている場合が多く，接着芯地の普及が，いまだ全国のすみずみまでは行き渡っていないのではないかと考えられる。新製品が年を追うごとに，どんどん開発されてゆくのを見る時，その活用の仕方，購入方法，取り扱い方などの知識，技術を持つことを心がける指導の必要性を，改めて感じさせられた。

実習，実験を終えた学生の多くは，「さらに深く，広く知識を得たい」，「新製品の出廻りや扱い方

を早く知りたい」、「もっと実験をしてほしい」などを希望している。接着芯地を正しく選択し、接着方法及び利用が上手にゆくようになれば、実習の際にも、各自家庭で行なうにも、能率的であり、関心も盛り上がってくるのではないだろうか。それには、表地に合わせて接着芯地に、もっと多くの色がほしいと思うし、材料を購入する時、いろいろの質問に対して、店の人が答えられるようにしてほしい、さらに、学生に接着芯地をつけた実物の洗たくも実験させる機会を持たせてあげたいなどを感じた。

昔に比べて実習時間が縮小されている教育の場において、いかに合理的、能率的に、そして、洋裁実習にあまり関心を示さない学生の指導をも含めて、いかに興味を持たせるかを考える時、我々も今までの習慣ばかりにとらわれず、良い点を継続させながら、あくまでも広く深く知識を得てゆくように努力しなくてはならないことを痛感する。

今後、この研究は学生及び主婦の接着芯地の使用状況などの年度別比較及びその相関関係などと、学生及び我々の接着芯地の実習、実験を行ない、研究考察をして行きたいと考えている。

終わりにあたり、本研究にご協力をいただきました学生のみなさん及び雲田直子副手、ならびに試料をご提供下さいました株式会社ニックの方々に対し、厚くお礼申し上げます。

(なお、この報告は、昭和45年11月28日、日本家政学会関東支部会第20回総会において、第1報、と第2報として発表したものの一部を含みます。)

#### 註

- (1) 表布、接着芯地ともタテ×ヨコ 5cmの大きさとし、時間、温度、器具を同一条件として、同一時間に行なった。
- (2) B<sup>1</sup> は調査記入のみをさし、B<sup>2</sup> は実習、実験一年後の感想記入をさす。
- (3) 年度により調査人数に多少の相違があるのは、クラス単位で実習、実験を行なったためである。
- (4) 一年後、学生の人数が少ないのは、選択科目になったこと、欠席者には調査を求めているため。
- (5) 本郷美枝・汐田美智子・森静香 衣生活 第14巻第8号 1971・10 P.10~13 衣生活研究会「家庭における接着芯地の使用状況」一家庭洋裁に関する調査研究の一部から一を合わせて参照されたい。
- (6) 学生が今まで教材を手がけて来ているものについては省略した。